

## 2 - 2 重点事業評価

事業名

電子図書館サービスの充実・県内図書館との連携協力の推進

### (1) 事業の概要

#### ● 対象

- ① 図書館に直接来館する利用者だけでなく、距離的理由や身体的理由などにより、来館が困難な利用者。
- ② 県内の市町村立図書館・公民館図書室・大学図書館・試験研究機関等。

#### ● 意図・目的

- ① インターネット等による電子媒体を活用した情報提供サービス（電子図書館サービス）の拡充を図ることにより、県立図書館のサービスを「だれでも」「いつでも」「どこからでも」利用できる環境の整備を進めていく。
- ② 本県公共図書館の中核としての役割への期待も大きいことから、県内の市町村立図書館等に対する後方支援を行ない、県全体の図書館サービスの充実を図る。

#### ● 具体的取組の概要

- ① 「越後佐渡デジタルライブラリー」による新潟県関係歴史資料のデジタル化とホームページ上での公開を推進するとともに、調査補助ツールである「郷土人物／雑誌記事索引データベース」などの独自データベース登録件数を増加させ、情報利用の利便性と効率性の向上を図る。また、引き続き、音楽ライブラリーの利用促進を図る。
- ② 市町村において、貴重資料のデジタル化の重要性が認知されつつあるが、引き続き「越後佐渡デジタルライブラリー」への参加を呼びかけ、更なる連携協力の拡大を図る。

### (2) 指標①（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
越後佐渡デジタルライブラリーの追加登録件数	年間 120点	137点(114%)

（平成26年度実績：238点）

### 指標②（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
越後佐渡デジタルライブラリーの今年度の参加館数	5館	6館(120%)

（平成26年度実績：8館）

### (3) 事業評価（自己評価）

自己評価	AA	追加登録件数、参加館数ともに、市町村への働きかけが効果を発揮し、目標が十分に達成された。
------	----	--

AA 目標が十分に達成された。

A 目標が達成された。

B 目標がある程度達成された。

C 目標の達成が十分ではない。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	新潟県関係歴史資料のデジタル化とインターネットによる公開は、遠隔地在住の県民や、研究者のニーズに応えるものであり、県立図書館の使命の一つである新潟県関係資料の保存と市町村支援の観点から、必要性は妥当と考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	前年までとあわせ13市町村15機関が参加し、多様な貴重資料をデジタル化・一般公開し、保存・利用の両面から県内外で役立っている。また、登録件数も目標を大きく上回った。

<p>効率性</p>	<p>事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。</p>	<p>デジタル化の際、資料形態や形状ごとに作業することで、作業効率をあげ、市町村の要望に可能な限り応えている。また、次世代職員の育成に取り組んだ。</p> <p>新潟県図書館協会の場で、協会加盟館である県内市町村図書館に対して「大規模災害時の加盟館相互の応援に関する申し合わせ」を提案（→平成27年5月15日決議）し、申し合わせ事項の「平時の取組」の中に「貴重資料の分散保存のため、県立図書館の越後佐渡デジタルライブラリーを活用する」と明記して働きかけを強化したことも、参加促進につながった。</p>
------------	---------------------------------------	--

(4) 次年度の展開

<p>方向性・問題点・改善点など</p> <p>資料のデジタル化は、貴重資料の保存と活用を両立させることに加えて、災害時の資料保存や遠隔地利用の推進にも極めて有効な取組であることから、今後とも所蔵資料のデジタル化を計画的に進めていく。</p> <p>また県内市町村立図書館等の支援及び、県内MLA連携の推進の観点から、市町村立図書館が所蔵する貴重資料についても、そのデジタル化を積極的に働きかけていく。</p>
---

(5) 図書館協議会意見

<p>「越後佐渡デジタルライブラリー」の登録件数や参加館の増加については、県内図書館等との連携・協力のもとに県立図書館としての重要な使命を果たしており、大いに評価される。また、次世代職員の育成も有意義な取り組みである。今後については、デジタル資料（現在、DVDやハードディスクに保存されている画像データ等）の万全を期した保管体制が必要であることを指摘しておく。また、本事業の意義が「県内の貴重資料の分散保存」にあるという認識を県内図書館等と共有することにより、長期的な計画のもとに遂行していくことが望ましいと考える。</p> <p>県内の市町村立図書館等への訪問研修について、「市町村立図書館の現状として、出張を伴う研修は限られた人数しか参加できないのに対して、訪問研修は休館日などに設定できることから、より多くの図書館職員の参加が可能である。また、各館の実情に合わせた内容で実施されることから、非常に効果的である」という意見が出されている。これまでの訪問研修に対する満足度が高いこともあり、その継続と充実が求められる。</p> <p>ホームページについては、アクセス件数や携帯電話からの検索件数が減少していることから、リニューアルはもとより、SNSなどの情報化の進展に対応した機能の付加に取り組むことが期待される。また、アクセス件数に関わらず、県立図書館ならではの質の高いコンテンツが発信されているかという観点から検討することも望まれる。</p>
--